

第2回 太田川を考える会

平成23年1月13日

和歌山県

1. 前回の考える会での主なご意見と対応

項目	ご意見	意見に対する県の考え方
1	7.4kまでいなくても、せめて床上浸水の多い4.8k（太田橋）まで改修して欲しい。	整備計画対象区間について再検討の結果、20年確率の洪水対応で、河口から4.8kまで改修することとします。
2	H.13洪水の浸水被害の状況では、中里・庄地区の浸水被害が多く、庄川の合流点には約100mの無堤区間がある。整備計画では、無堤部の改修もされと思うが、無堤の方が水の引きも早いので、どちらがいいか十分検討してほしい。	無堤区間付近（3.7k付近）の20年確率の洪水（850m ³ /s）に対して、現況流下能力が不足しているため、基本的に築堤をする必要があると考えます。 しかしながら、H13年洪水のように、整備計画規模を超える洪水が発生した場合は、越水等による浸水が発生することがあり、御懸念のように浸水が解消するまでに時間を要する恐れがありますが、築堤により浸水頻度を小さくすることにより、今後の土地利用の可能性が大きくなります。
3	大宮橋の岩盤が潮を防ぐと説明を受けたことがあるが、掘削によって潮止め効果がなくなるのではないか。	現状の環境（アユの産卵場の位置）、河川水位及び潮位、実績を勘案すると、潮の遡上に対する岩掘削の影響はないものと考えられます。

2. 太田川の現状と課題

●治水の現状と課題

年月日	要 因	流域平均24 時間雨量 … (mm)	大宮橋 ピーク流 量 ¹⁾ (m³/s)	被害状況 ²⁾	
				浸水面積	被災家屋数
S34. 9. 23～26	伊勢湾台風	162. 5 ³⁾	—	不明	那智勝浦町532戸 ⁴⁾ 下里町290戸
S42. 10. 27	台風34号	351. 9 ³⁾	—	不明	215戸
S63. 9. 25	台風22号	285. 3	639	不明	22戸 ⁴⁾
H2. 9. 30	台風20号	249. 2	565	不明	1戸
H3. 9. 19	台風18号	354. 4	716	8. 7ha	1戸
H10. 9. 24	集中豪雨	349. 5	996	不明	15戸
H13. 8. 21	台風11号	553. 9	1, 272	110ha	261戸

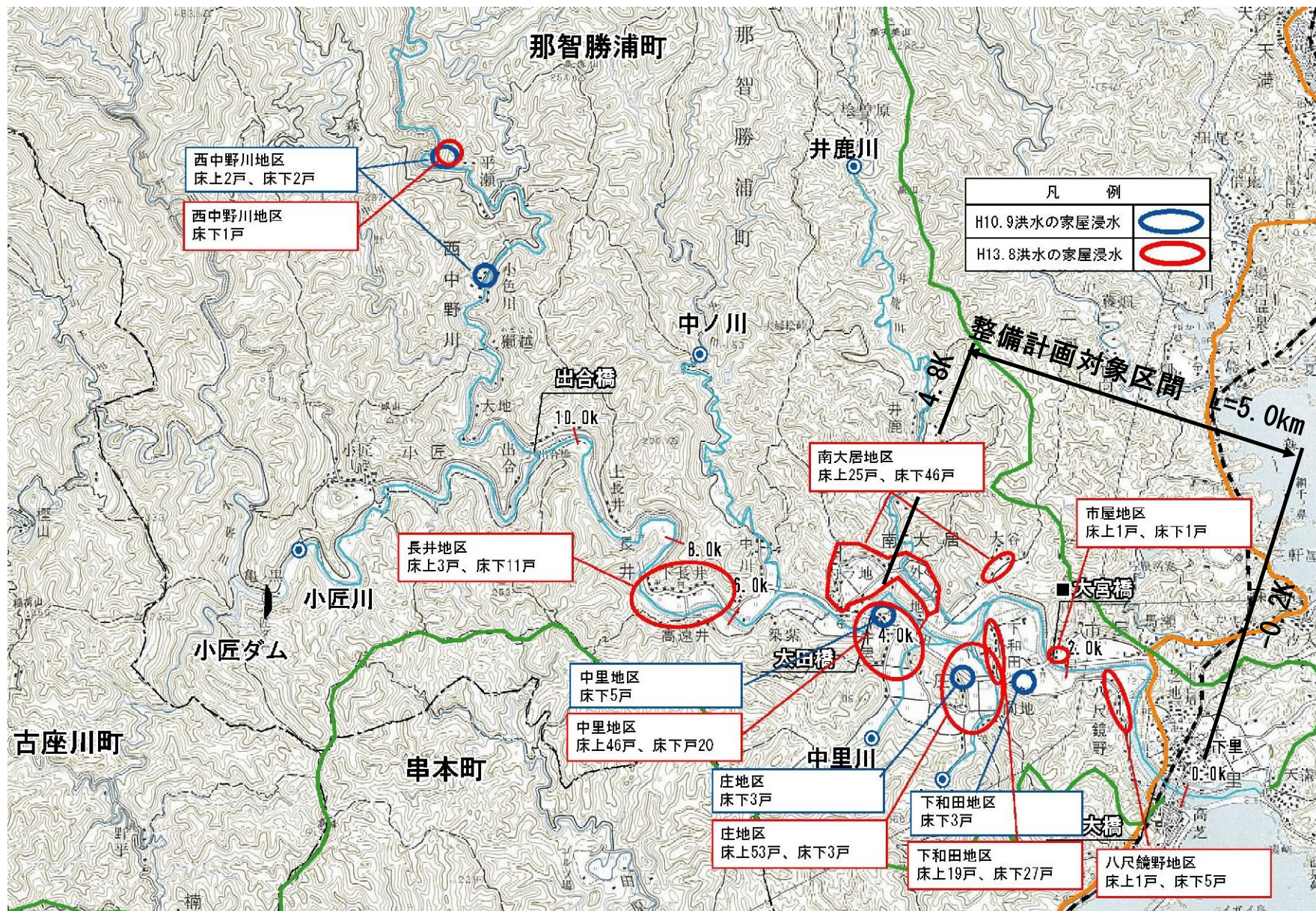
1) 実績降雨からの計算値（小匠ダムは現行操作ルールを適用）

2) 被害状況については、那智勝浦町史及び那智勝浦町へのヒアリングによる

3) 伊勢湾台風、台風34号については、流域平均日雨量

4) 太田川流域以外のものも含まれている

●既往浸水被害の状況



河川整備計画検討条件

- 概ね30年間とする

●河川整備計画事業内容の比較検討

	前回	今回
ケース	1/20洪水対応 3.2kまで	1/20洪水対応 4.8kまで
事業費	約20億円	約24億円
河道改修 メニュー	築堤 6万m ³ 掘削 17万m ³ 護岸 23千m ²	築堤 8万m ³ 掘削 20万m ³ 護岸 44千m ²

- ・ 1/20洪水対応で4.8kまでの河道改修を行う。
- ・ 本川の改修を優先し、河口から上流へ順次改修していく。
- ・ 河口部において、津波及び高潮対策を合わせて実施する。

●東海・東南海・南海地震への対応

東海・東南海・南海地震による津波から安全に避難し、人的被害を防ぐことを目標



太田川に浸入した津波による人的被害を防ぐ

河川整備計画において対象とする対策

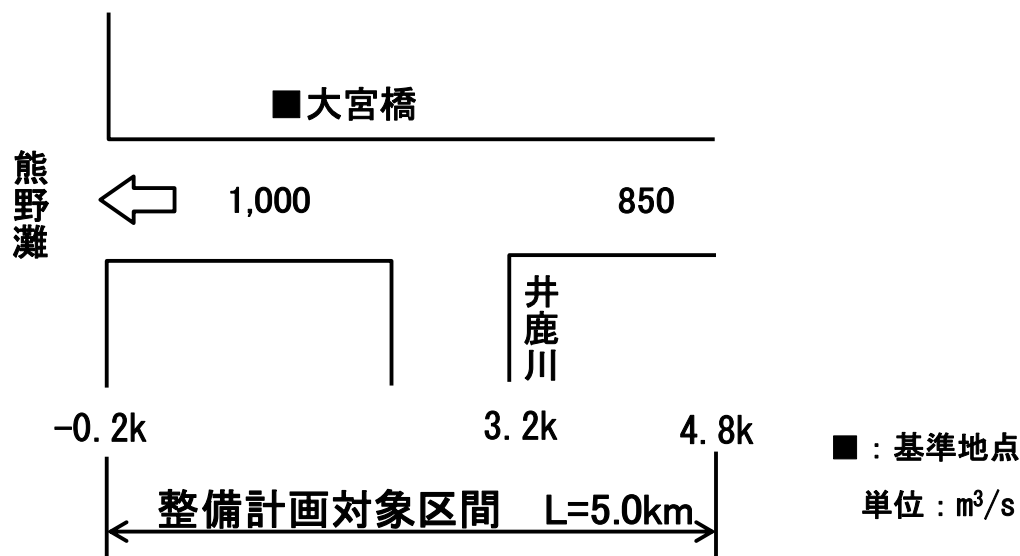
津波から「逃げ切る」支援プログラムより

●まとめ

1. 計画区間について河川整備を行うことにより、**20年に一度程度の確率で発生する規模の降雨（概ね最大24時間411mm）**が降った場合に発生する洪水を安全に流下させることを目標とし、**太田川の大宮橋地点（2.28km）**で $1,000\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させるものとする。
※**既設小匠ダム**での洪水調節を考慮。

2. **津波・高潮**による被害の軽減対策を行うものとする。

流量配分図



●河川整備計画における河川改修の概要

➤期間

- ・計画策定から概ね30年間とする

➤施行場所

- ・太田川：-0.2K～ 4.8K (河口～太田橋地点) L=5.0km

➤整備内容

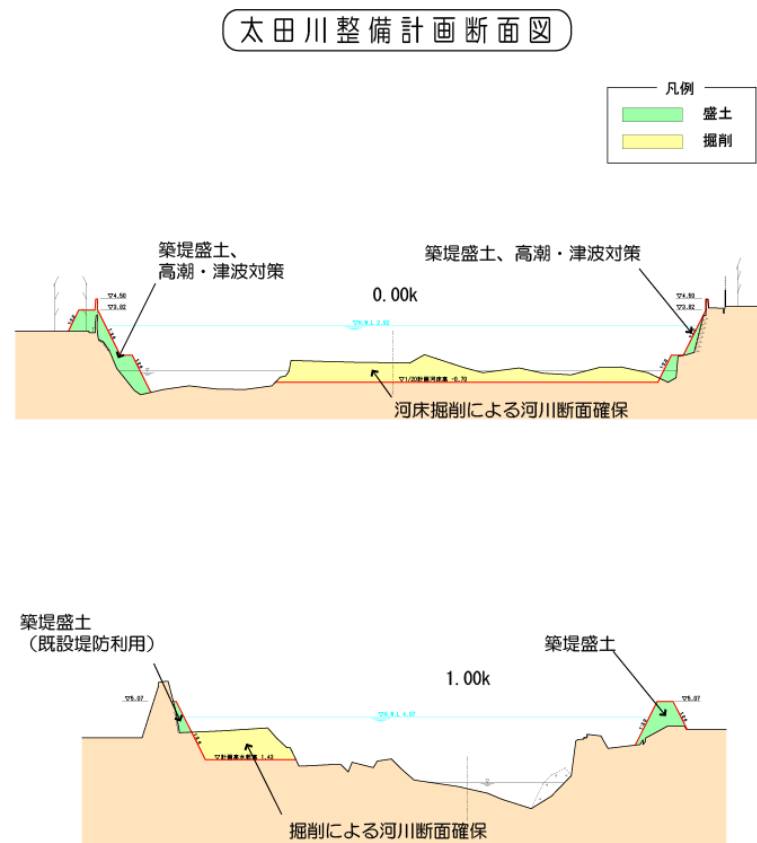
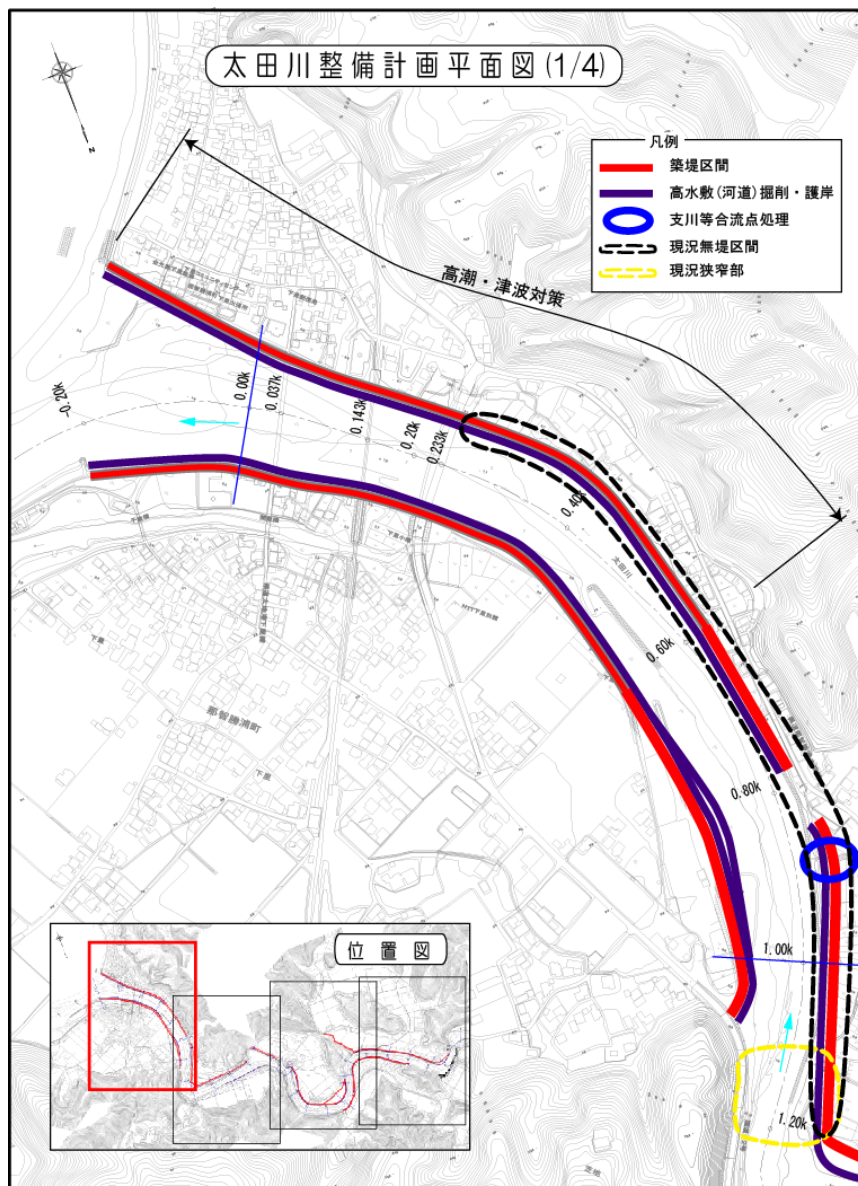
- ・河川整備の実施にあたっては、自然環境や周辺景観に十分配慮し、地域住民や関係機関との協議・調整の上、河川工事を進めていく

太田川河川改修の概要

河川名	整備区間	延長(m)	実施内容
太田川	-0.2k～4.8k	約5,000m	築堤、河床掘削、河道拡幅、護岸

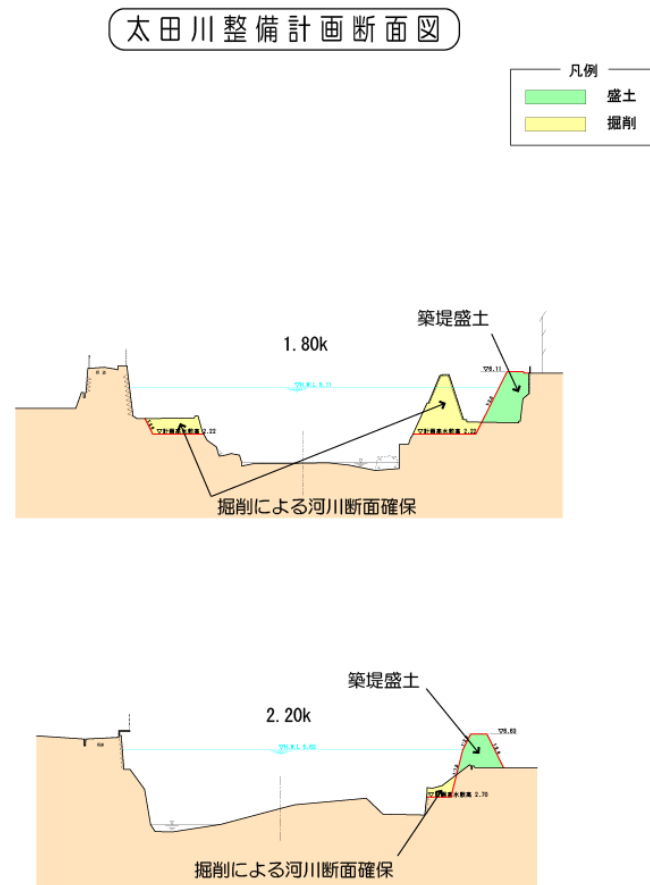
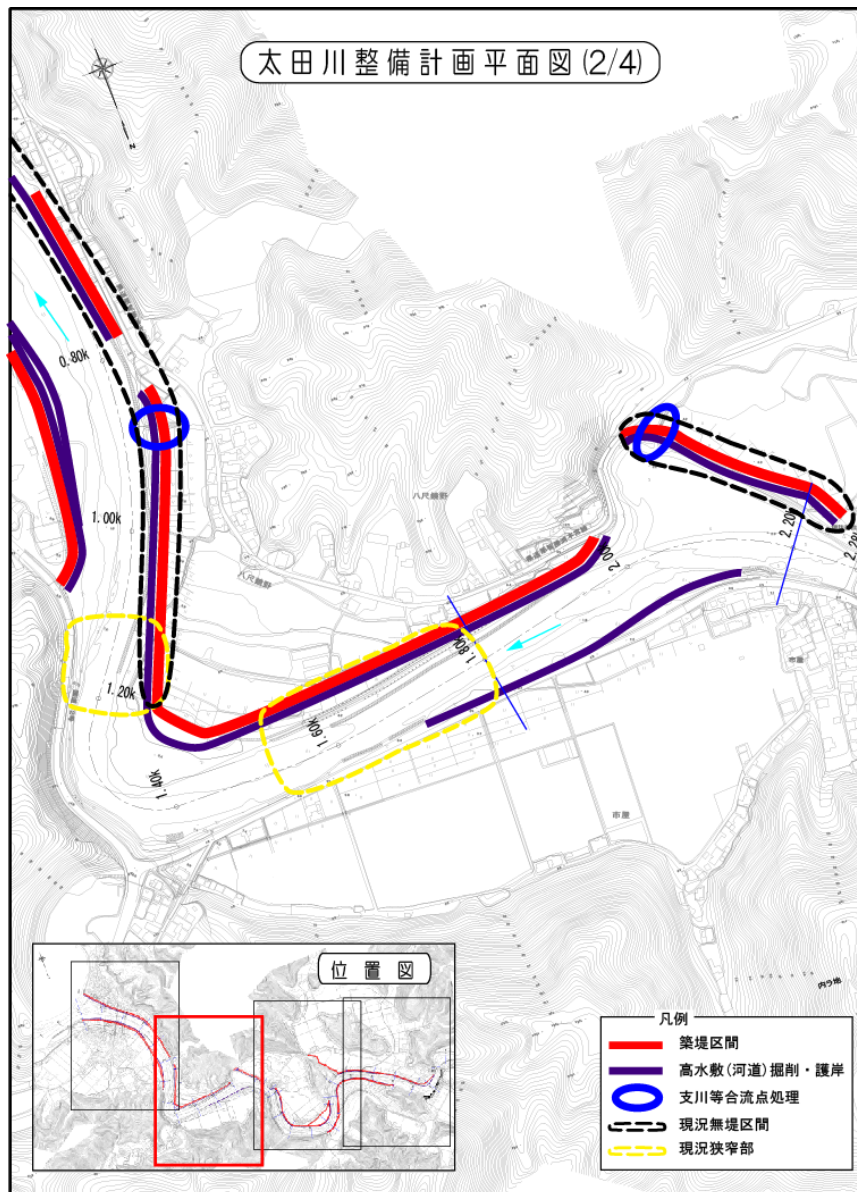
●太田川河川改修概要図(1)

※計画平面図等については、今後の詳細設計により見直す可能性があります。



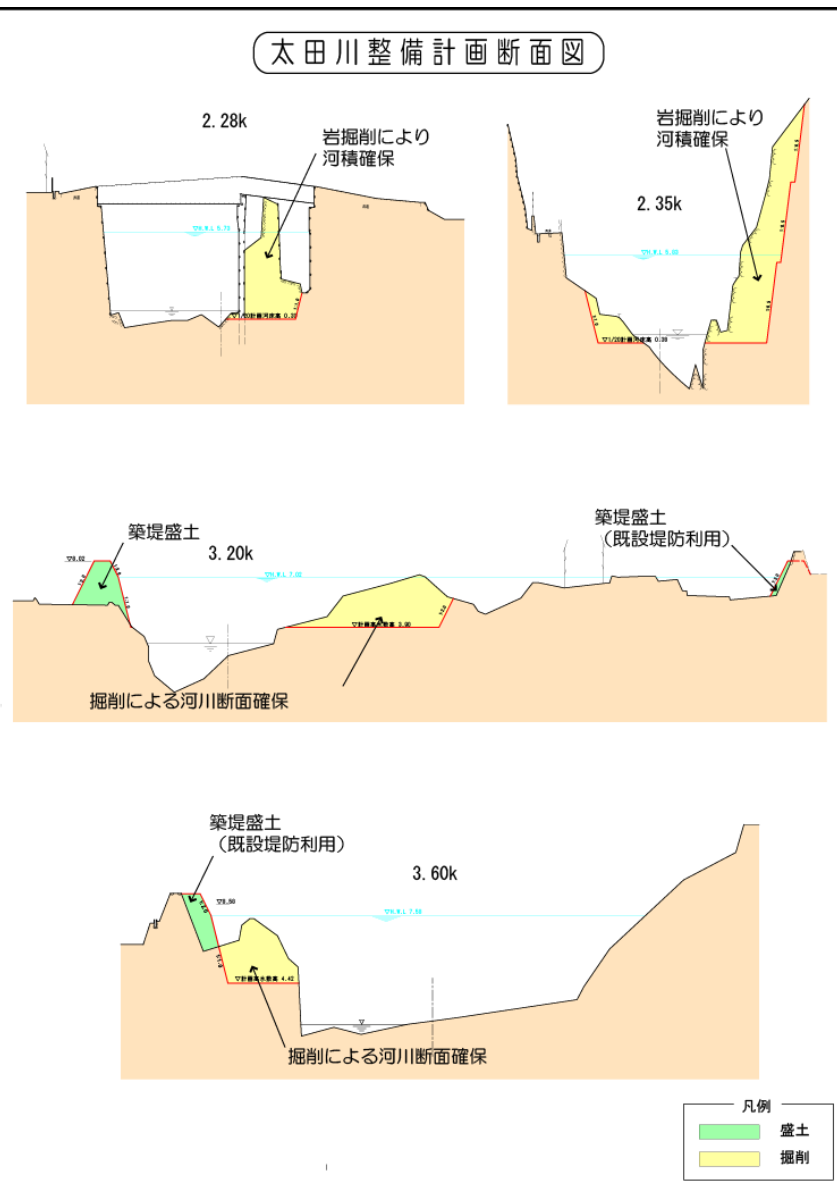
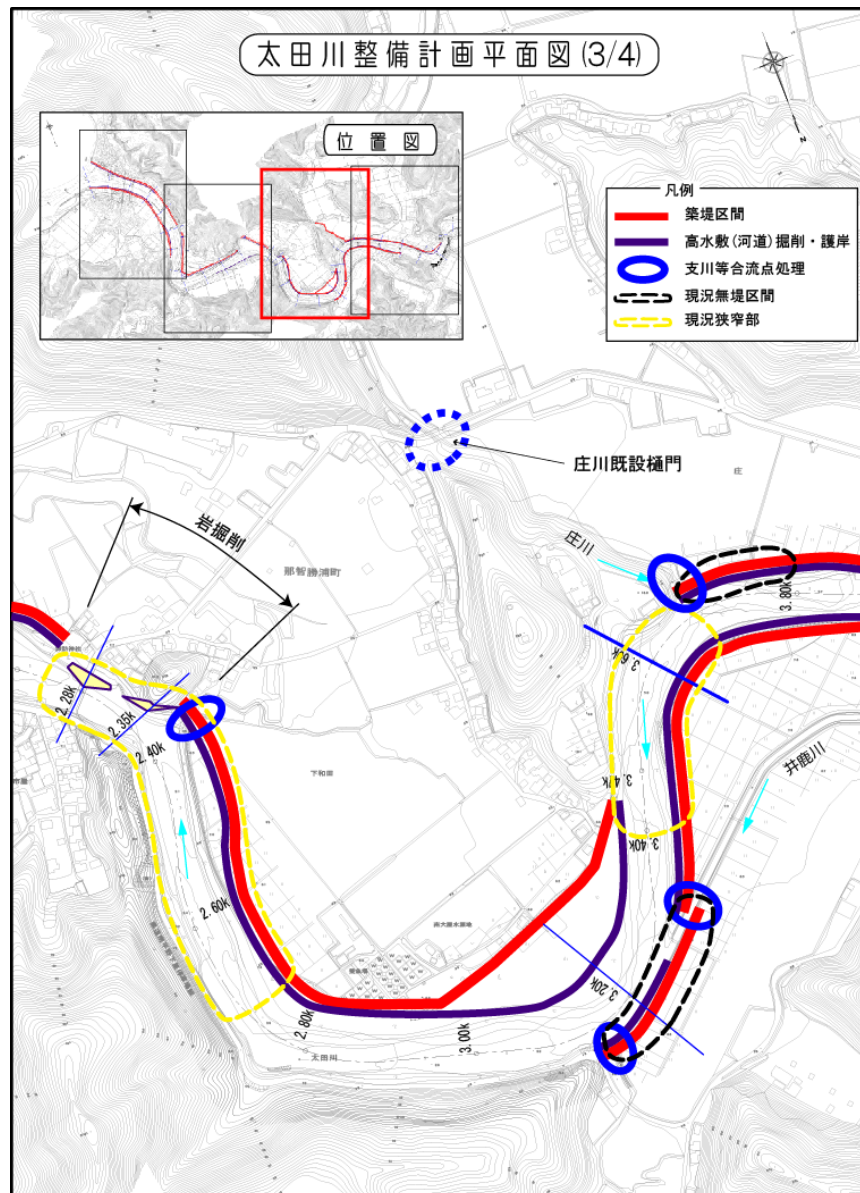
●太田川河川改修概要図(2)

※計画平面図等については、今後の詳細設計により見直す可能性があります。



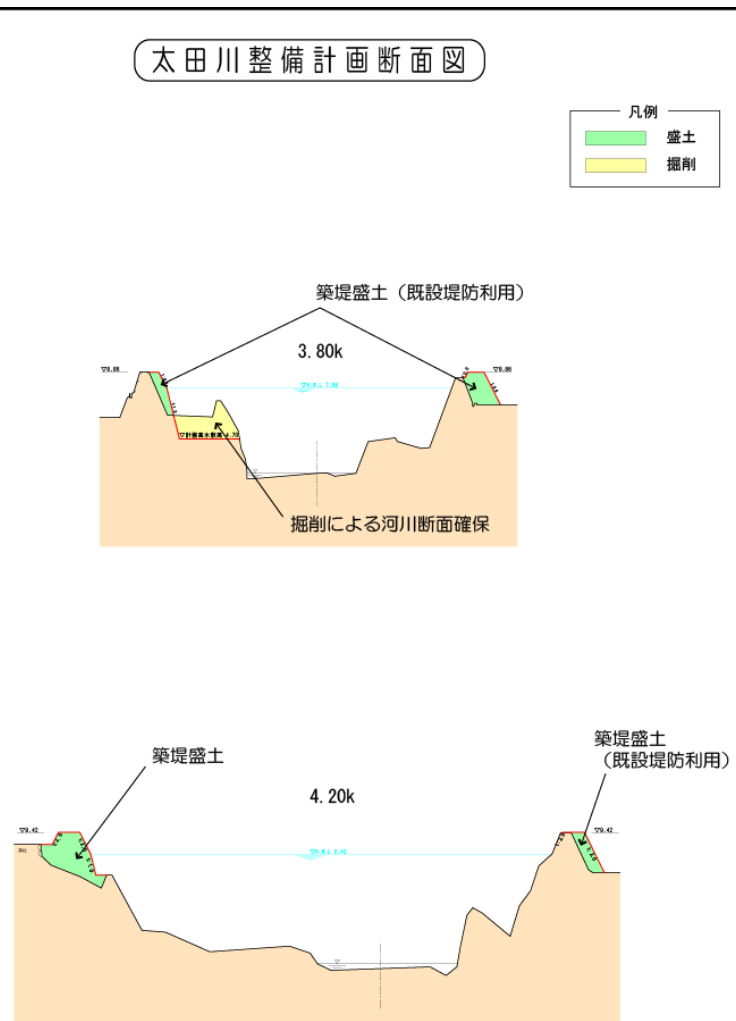
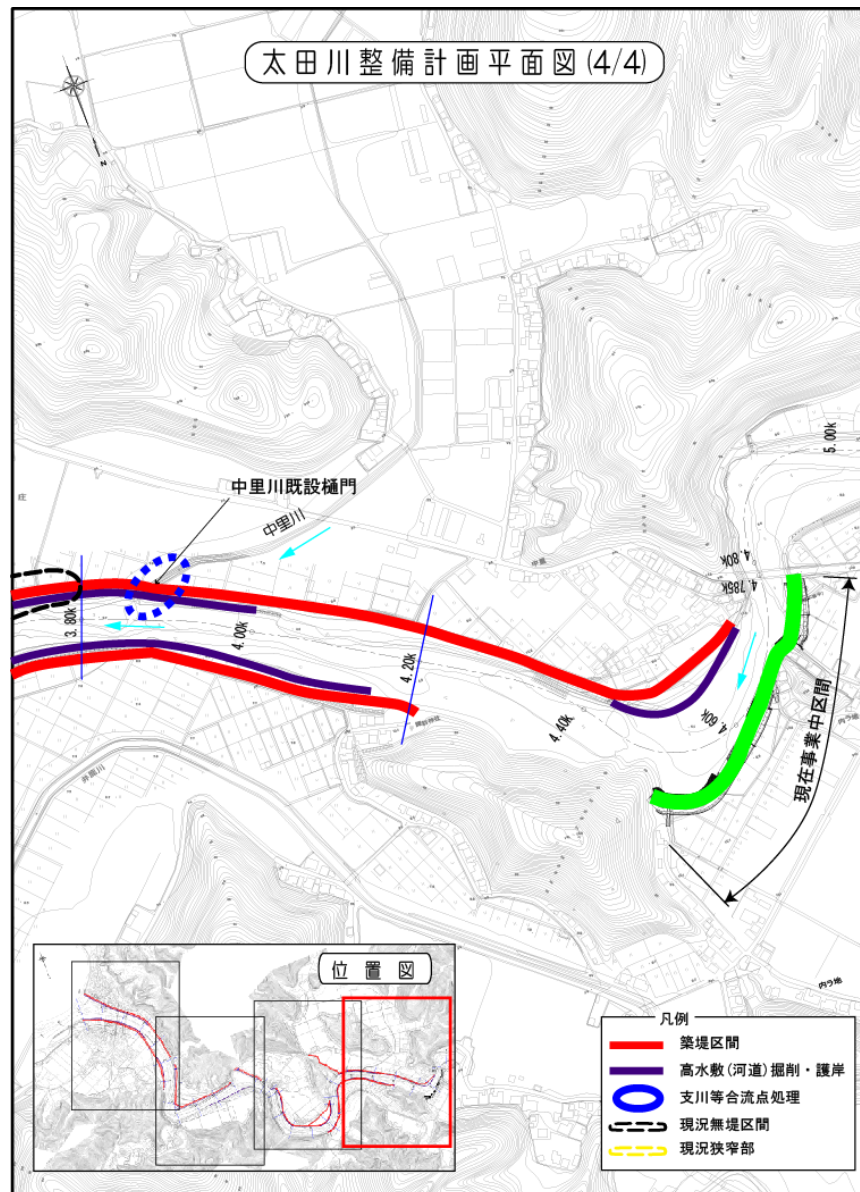
●太田川河川改修概要図(3)

※計画平面図等については、今後の詳細設計により見直す可能性があります。



●太田川河川改修概要図(4)

※計画平面図等については、今後の詳細設計により見直す可能性があります。

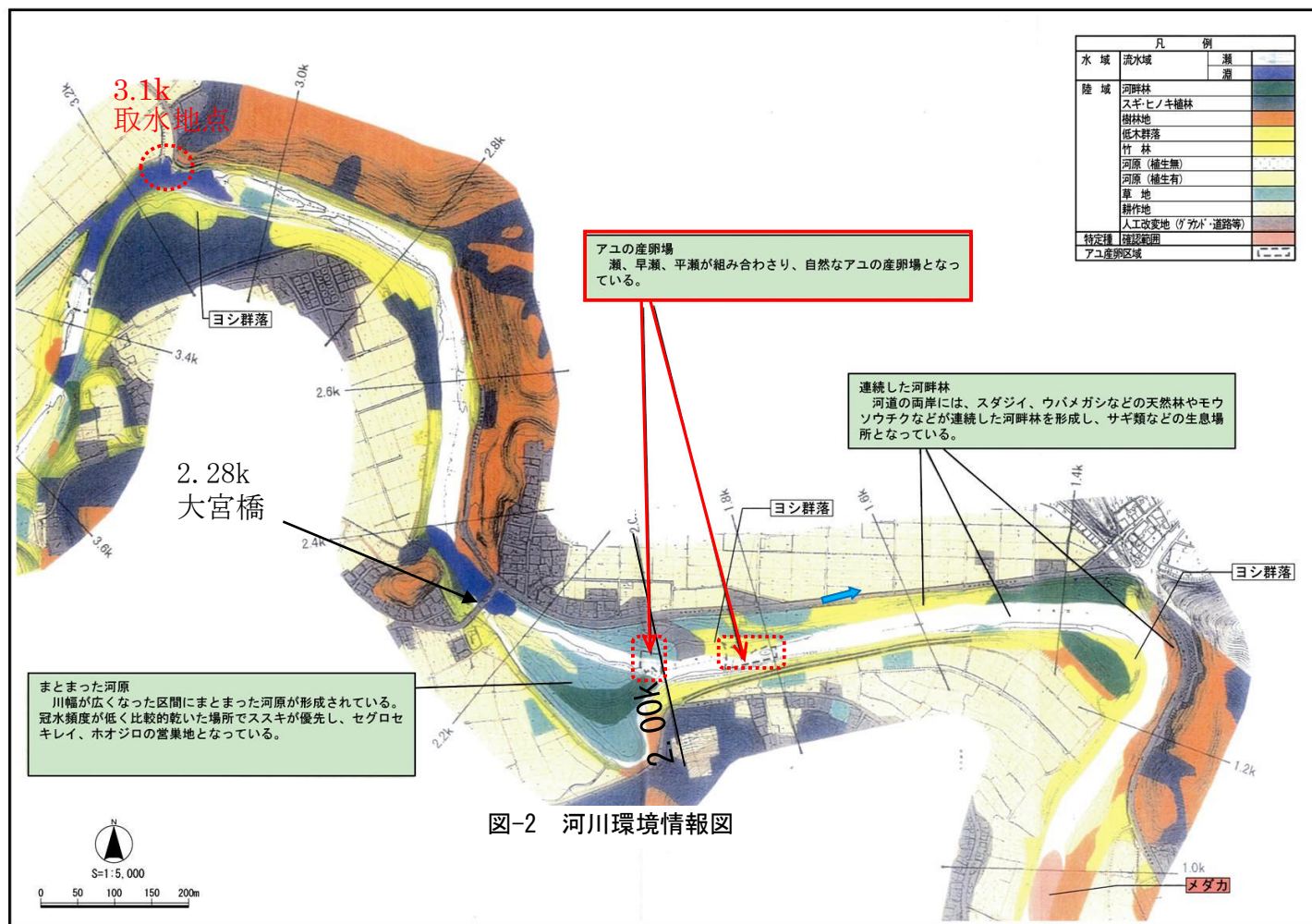


4. 大宮橋の岩盤掘削に伴う取水施設への影響(塩害)について



①環境面からの考察

太田川環境調査より、2.0k付近がアユの産卵場であることが確認されている。
アユは淡水魚であり、淡水と海水の混合境界付近を産卵場とすることから、現状において2.0kより上流は、潮の影響がほとんどないものと考えられる。



②河川水位及び潮位からの検証

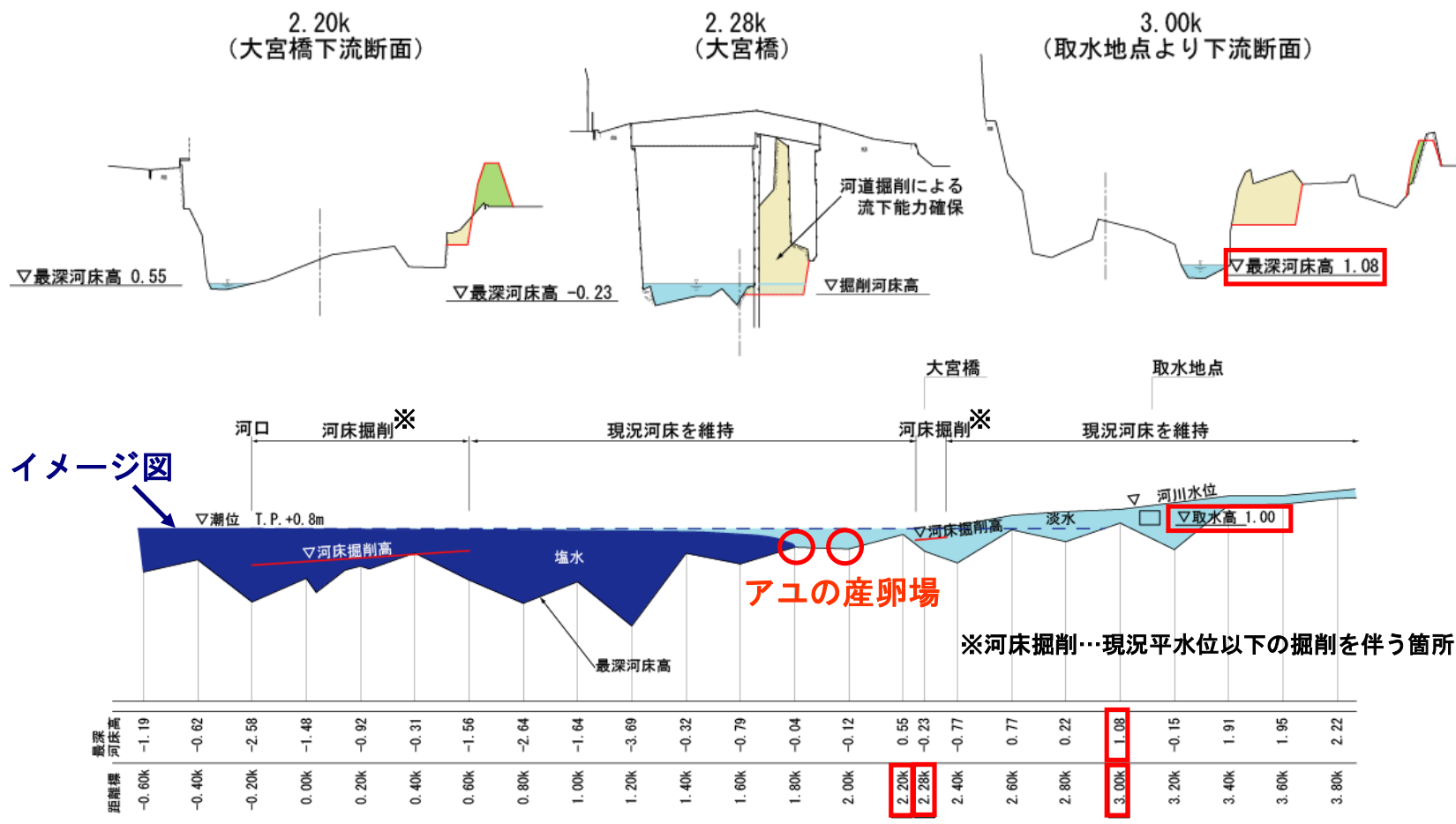


図-3 整備計画横断面図及び河床縦断面図

- ・大宮橋地点(2.28k)における岩盤(河床)掘削により、平常時水位が低下すると考えられるが、掘削は局所的であるので、河床掘削を行わない直下流の2.20kにおける水位は、大宮橋付近の掘削前後でほとんど変わらないものと考えられる。
- ・河床掘削を行わない取水地点直下流である3.00k地点の最深河床高はT.P.+1.08mであり、朔望平均満潮位T.P.+0.80mよりも高い。

③塩害の実績

「過去に塩害が発生した実績はない」(那智勝浦町水道事業所への聞き取り)



①、②、③の検討より

大宮橋付近の岩盤掘削による、取水施設への潮の影響はないものと考えられる。

今後の予定

